

へきけんニュース

ホームページ https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/メールアドレス kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp

☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



背景は北海道教育大学札幌校

令和4年度のへき地教育アドバイザーをご紹介します

-へき地校体験実習や学生指導体制を強化しました-

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター

へき地教育アドバイザーの役割と期待

へき地教育アドバイザーは、北海道教育大学のへき地校体験実習を実施している札幌校・旭川校・釧路校の各キャンパスに配置されています。へき地教育アドバイザーの役割は、各校教育実習委員会・地域委員会・カリキュラム委員会と連携しながら、へき地校体験実習の学生指導・学校との調整していただくことです。とりわけ全国的な過疎化・小規模校化の中で、へき地校体験実習は、北海道及び全国の過疎地域をはじめとした地域に根ざす教師や教職意欲の高い教師を輩出する上で極めて重要になってきています。へき地校は、若年教師の定着率も低いいため、へき地校で活躍する教師の養成は、焦眉の課題です。

また、へき地教育は、個別最適な学び・協働的な学びや、ICT遠隔双方向教育などの「令和の日本型学校教育」を推進する重要な条件となっています。そのため、今後へき地校体験実習の拡大・学生指導・教育委員会や学校との連携活動・大学内連携活動を推進する上で、へき地教育アドバイザーには大きな期待が寄せられています。



▲北海道教育大学
へき地・小規模校教育研究センター

へき地教育アドバイザーの自己紹介

へき地教育アドバイザーには、札幌校に柿崎秀顕先生と加藤雅子先生、旭川校に伊端俊紀先生と田中和敏先生（非常勤）、釧路校に荒川浩一先生がおられます。以下に各先生から自己紹介をしていただきました。



札幌校へき地教育アドバイザー 柿崎 秀 顕

3月末、洞爺湖町立洞爺湖温泉小学校を退職し、札幌校へき地教育アドバイザーとなりました 柿崎 秀顕(かきざき ひであき)と申します。

私はこれまで校長として、5校の学校に勤務しましたが、そのすべてが、複式学級を有するへき地・複式校で、北海道の役員や全国のへき地教育研究連盟の会長も4年させていただき、へき地教育に関わり多くを学ぶことが出来ました。

また一方では、ここ2年間コロナ禍で、文部科学省が主催し全へき連が主管する「全国へき地教育研究大会」の正常な形で行うことが出来ず、本来の研究大会の経験をしているのは私しかなくなってしまったことで、文部科学省の意向もあり、全国へき地教育研究連盟会長を続投した形で、大学に採用していただいています。

このような異色の経歴の私が今やるべき仕事は、大きく二つあるのではないかと考えています。それは、本校と連携協定を結んでいる全へき連の会長として、全国から寄せられる「各地区の取り組みの情報」を「集める」「まとめる」そして大学という研究機関で「深める」、また、札幌校二人目のアドバイザーとして、先輩方が取り組んできたことをよりプラスの方向へ進めるために、キャンパス間の「隙間を埋める」「つなげる」そして学内の共有財産として「広げる」。そんなことが私の出来ることではないかと考えています。

「まずはやってみる」そんな思いで走りだそうと思いますので、よろしくお願いいたします。



札幌校へき地教育アドバイザー 加藤 雅 子

札幌校のアドバイザーとなり、今年度で3年目になります。着任以来、へき地校体験実習も新型コロナウイルス感染症の影響を受け続けてきました。実施直前に感染拡大のあおりで実習が中止になったり延期になったりする学校が出るなど、様々な課題がありましたが、その都度、各方面の皆様にご助けをいただきながら、何とか推進していくことができました。実習を終えた学生の感想によると、実習での経験がいかに価値のあるものだったかということが伺われ、困難の中でも途切れずに行えたこと、何はともあれ、本当によかったと思っています。

また、この2年間は、コロナの追い風もあり、現場では児童生徒一人一人にタブレットが配付されるなど、ICTが急速に普及しました。一昔前までは遠い将来の話と思われていたオンライン授業も現場で普通に行われるようになりました。これらは特にへき地小規模校において、遠隔地ともつながれる等の恩恵をもたらしてくれました。更に、小規模であるが故に取組もスピーディーで、いつの間にか、へき地小規模校が先進的な役割を負うようになっている感さえあります。ICTの普及のみならず、今日的な課題である個別最適化や協同的な学び、子ども自らが学ぶ力の育成など、従来、へき地小規模校や複式学級で大切に培ってきた教育に改めて光が当てられています。大規模校を真似るのではなく、へき地小規模校から都市部の学校が学ぶ時代が間違いなく訪れています。学生たちにも、「最先端を学びたいければへき地校体験実習へ！」と呼びかけ、実習の拡充やへき地小規模校における指導法の深化に今年も努めていきたいと考えています。



旭川校へき地教育アドバイザー 伊 端 俊 紀

この4月から、縁あって、旭川校のへき地教育アドバイザーになりました伊端俊紀です。3月末をもって、上川町立上川小学校を最後に、十勝管内と上川管内の11校での勤務を終えました。そのうち、6校17年は小規模・複式校で、へき地教育と縁深い教職人生となりました。

2月、北京オリンピックが開催されましたが、前回大会に引き続き活躍したロコ・ソラーレの姿から、自分が教職員として育てようと目指した子どもの姿を見

ることができました。それは、自分の気持ちを素直に表現でき、自分の考えを相手に確実に伝えるスキルをもち、課題に対して、自ら努力するのはもちろん、仲間と力を合わせ解決することを大切にしている心を持っているというものです。そこに到達するには、お互いにぶつかり合い、悩み、葛藤ありの時期を乗り越えてという歴史があったと思います。そして、このメンバーのほとんどが旧常呂町で育ち、中学校卒業まで小規模校の特徴である、少ない人数、ずっと同じ仲間と学ぶという経験をし、世界で活躍している姿は、我々、へき地・小規模校教育に携わってきた者の誇りと言えます。微力ではありますが、今後も、このメンバーのような人を育てるへき地・小規模校教育のために取り組んでまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



旭川校へき地教育アドバイザー(非常勤) 田中 和敏

平成29年4月から令和3年3月までの5年間、旭川校へき地教育アドバイザーとしてお世話になりました。

この間、日常と大きく異なる環境で、明確な目的と高い目標をもち、意欲的にへき地校体験実習に臨む学生の姿に、将来の日本の教育を背負っていく力と頼もしさを強く感じました。

また、大学の先生方の“へき地”の在り方などに関する研究や、実践に基づいた“複式・小規模学級”の授業についての研究からは、新たな視点からへき地・複式・小規模校教育を考える機会もいただきました。

現職の時にこれらの経験をすれば、へき地・複式・小規模校教育の充実に違った視点からの取組ができたのではないかと思いつつ、改めて、大学と学校現場の連携の必要性和意義を強く考えるとともに、この仕事にお誘いいただいたことに感謝しております。

さらに、4月からもアドバイザーとして月5・6回ほど仕事もさせていただけることになり、皆様には引き続きお世話になることとなりました。どうぞよろしくお願いいたします。



釧路校へき地教育アドバイザー 荒川 浩一

釧路校のアドバイザーを務めさせていただき2年目となりました。この仕事の大きな柱である「へき地校で活躍できる人材養成」がいかに重要なものであるか、まわりの期待がどれほど大きなものであるかをあらためて感じ、むしろ緊張は激増しています(まわりからはそうは見えないかもしれませんが)。自分がどこまでできるかという不安は恐らく今後も消えないかと思いますが、このような重要な仕事のお手伝いをさせていただく有用感で、やる気満々の新年度を迎えることができている。何より楽しみにしているのは、学生たちと接する中で彼らと「成長」を共有できる嬉しさ、楽しさです。学生が実習やその準備、まとめの期間で見せる「成長」は、当初私が考えていた以上のものでした。新しい世代の後継者の成長が嬉しく感じるのは、教職時代と全く変わるものではなく、いい役割を与えていただいたと心から感謝しております。…と同時に日々衰えを感じる知的・身体的能力を少しでも維持するために、私自らも気持ちのベクトルは常に「成長」目指して頑張らねばと決意をあらたにしております。

これまで1年間、多くの皆様のご助言、ご協力でなんとか勤めてまいりましたが、実習受け入れ校が増える見通しであるということもあり、これまで以上に多くの方々のお力を頼りにする場面があるかと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

アドバイザーの皆様、ご多忙のところ寄稿いただき、誠にありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

令和4年度のへき研センター員をご紹介します

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター

各キャンパスのセンター員は、以下のメンバーで各校の活動が運営されています。

センター員の皆様、1年間どうぞよろしくお願いいたします。

職名等	氏 名		所 属
センター長	玉井 康之		副学長
副センター長	川前 あゆみ		釧路校
センター員	○池田 考司 花輪 大輔 萬谷 隆一	中島 寿宏 ◎前田 賢次	札幌校
	赤間 幸人		教職大学院(札幌)
	宮原 順寛		学校臨床心理専攻(札幌)
	佐藤 正範		未来の学び協創研究センター
	◎渥美 伸彦 勝本 敦洋 高瀬 淳也 谷地元 直樹	笠原 究 坂井 誠亮 ○芳賀 均	旭川校
	水上 丈実		教職大学院(旭川)
	小野 豪大 棚澤 実 ◎境 智洋 半澤 礼之	小淵 隆司 ○越川 茂樹 早勢 裕明	釧路校
	秋保 和久 森 健一郎	小澤 一記	教職大学院(釧路)
	石井 洋 坂本 紀子 山口 好和	○小松 一保 鈴木 淳	函館校
	◎阿部 二郎		函館校／教職大学院(函館)
	◎能條 歩		岩見沢校
	へき地教育 アドバイザー	柿崎 秀頭	加藤 雅子
伊端 俊紀		田中 和敏(非常勤)	旭川校
荒川 浩一			釧路校
釧路校キャンパス長	浅利 祐一		釧路校
運営協力委員 〔キャンパス長〕	田口 哲		札幌校
	安藤 秀俊		旭川校
	五十嵐 靖夫		函館校
担当事務	品田 亮子	小林 佳之	教育研究支援部連携推進課
	島田 勤		釧路校室
	酒井 義信	森越 鈴音	釧路校室総務G

◎キャンパス代表、○キャンパス副代表